

東日本大震災を乗り越えて、
前に進もうとする三陸の人たちからの
メッセージを届けます。

「洋野エモーション」を企画

横葉和浩さん

列車が通る時刻が近づくと、洋野町の住民がJR八戸線の沿線に集まってくる。レストラン列車「東北エモーション」の乗客を歓迎するためだ。老若男女が大漁旗や鯉のぼりなどを持ち、通過する列車に精いっぱい手を振る。

「洋野エモーション」と名付けた、その活動を企画したのが、種市高校海洋開発科で教鞭をとる横葉和浩さんだ。同校は、NHKのドラマで全国に知られることとなった「南部ダイバー」を育成する、全国唯一の学科を擁する。

活動は、宿戸〜陸中八木間にある宿戸大浜で始めた。津波の被害で、線路が流失した場所だ。「線路が復旧して嬉しい気持ちを伝

えるとともに、町のこと、南部ダイバーのことを知って欲しいと思って始めました」と横葉さん。教員と生徒で始めた活動が広がり、今では大浜以外の数カ所で町民が自主的に集まり、復興が進む元氣な姿をアピールしている。

横葉さんは、「乗客や乗務員も笑顔で手を振り返してくれる。感動したからと、『何かに使ってください』と寄付をくださった方も町内外で、新しい交流が生まれています」と笑顔を見せる。

この日は教え子2人とともに、南部ダイバー姿で列車が見えなくなるまで手を振り続けた。地元愛と南部ダイバーの誇りを胸に、また次の列車を迎える。

南部ダイバーと町を知って欲しいから



JR八戸駅〜久慈駅間で、土・日曜・祝日を中心に1日1往復する「東北エモーション」。その乗客を喜ばせるのが、「洋野エモーション」だ。感謝の気持ちで始まった活動に、種市高校の生徒たちは積極的に参加。横断幕を手に、南部ダイバーをアピールする。

岩手県立種市高等学校
<http://www2.iwate-ed.jp/tan-h/>

